

間人分校キャリア教育だより

平成 26 年 10 月 京都府立網野高等学校間人分校

青年は未来を信じ
使命に生きる



教師として大切にしたいこと

校長 塩見 正典

もう何年ぶりになるのか……夏休みの宿題がでた。この機会に 37 年間の教師生活を振り返り、教師として大切にしたいことをまとめてみる。

まず、基本は Every child matters ! 「誰もが大切」ということである。生徒は、学びの早い生徒、遅い生徒など多様である。しかし、学べない生徒はいない。教育は生徒の未来のためにある。Ends (目的) と Means (手段) を混同しないように心がけたい。

次に教師生活 37 年間で大きく社会が変わった。特に最近は変化が激しい。この社会 (知識基盤社会) を生き抜くためには、生涯にわたって学び続けることが大切である。ある時、講演を聞きながら自分自身を見つめ直してみる機会を得た。講師の先生は次のように教えてくださった。

- ① The mediocre teacher tells.
⇒「ありきたりの教師は指示する。」当時の私にピッタリ当てはまった。反省反省。
 - ② The good teacher explains.
⇒「よい教師は説明する。」①の反省から、極力説明するよう心がけた。
 - ③ The superior teacher demonstrates.
⇒「お手本を示す。」=「行動で示す。」、これが実践できた時少し変わったと自覚した。
 - ④ The great teacher inspires.
⇒「その気にさせる。」は、本当に重要であると思い、書物や先輩の助言などから貪欲に学んだ。
- ※①～③は先生が主体であるのに対して、④は生徒が主体である。このことを重要視し、全面に押し出し、指導や援助するように心がけている。この4点は生涯学び続けるという視点でも重要である。

最後に当時の自分の課題から述べてみたい。授業や部活動を通して体育会系ゆえかもしれないが、競争や比較ということに強いこだわりがあった。まずは競争、ついつい結果にこだわり競争を意識しすぎた。結果、生徒たちに過度な要求をしていたように思う。一時期この課題克服に向けて悩んだことがある。様々な機会に色々な人のアドバイスや書物から学び次のような結論に達した。競争するのは相対する人やチームでなく Potentials (可能性) であると。この時から自分自身多少成長できたかなという気がしたし結果も出た。また、生徒からの信頼も少し得た。一方、比較という面では生徒同士を比べることが多かった。この点も自分自身の大きな課題であった。ある先輩から「昨日の君より今日の君はよくなったね。」と言葉をかけていただき目が覚めた。比べてよいのは昨日の生徒である。

教師はオーケストラの指揮者で生徒は演奏者である。それぞれの個性を引き出し、日々達成感を味わってもらうことが成長につながるのである。

「社会人になって役立つこと」

進路指導部長・理科 狩野清貴

昔から「読み書きソロバン」と言いますが、現代風に言い換えると「読み書き計算&パソコン&英語」ということになるのでしょうか。これらは社会生活を営む上での基本であり、すべてが学校で学ぶ内容と重なっています。すなわち、「国語、数学、情報、英語」です。

スーパーやコンビニ等で扱っている商品について考えてみますと、海外で生産され日本に輸入されている品々がたくさんあります。また、テレビやインターネットでは、たとえば気象、自動車や身近な工業製品、スポーツ、音楽 (芸術) などが取り上げられ、今はそういう情報も生活の一部となり常識とされるようになりました。これらも「地理歴史・公民、家庭、商業、理科、保健体育、芸術、総合学習」で学びます。

大変気がつきにくいのですが、学校で学ぶ事柄が「縁の下の力持ち」となって社会人になったときに生活を手助けしてくれます。別の言い方をしますと、学校で学習していることは、未来の可能性を切り開き大きくしていってくれるものということができます。

「短歌の創作と発表」

教務部長・国語科 石山敦子

3・4年生を対象に、外部講師の方に来ていただいて短歌講座を実施しています。フィールドワークも行い、生徒たちは短歌作りに挑戦します。今年度は宇川の高嶋海岸に行きました。

自然の中で短歌の材料を探しますが、同じ景色を見ていても、何をとらえて詠むのかはそれぞれ違います。詠めたと言って披露してくれる生徒、下の句がうまくいかない悩む生徒。生徒たちの表情はとても生き生きとしています。3年生の時は、「早く帰ってゆっくりしたい」と詠んでいた生徒が、4年生では「海の波音耳をかたむけ」と詠み、浜辺でのひとときを楽しんでいる様子うかがえました。

自分の見たものや、その時の思いをどんな言葉で表現していくのか。海や空の青さ、波の音を詠む生徒もいれば、皆と一緒にいることの嬉しさや将来の夢を歌のテーマにする生徒もいます。自分の思いを言葉にして伝える。そして、友だちは何を詠んだのかと、その思いを受け取る。皆の前で自分の歌を発表し、講師の先生にコメントをしていただいて、生徒たちは照れ臭そうにしておりましたが、言葉で表現することの難しさや面白さを感じた良い機会になったのではないかと思います。

「インターンシップ」

3年担任・地歴公民科 高津浩司

3年生は、9月9日から12日にかけて、4日間のインターンシップに取り組みました。

1学期から、個別の面談を重ねながら体験事業所を決定しましたが、すぐ決まる生徒となかなか決まらない生徒とに分かれました。進路に対する意識が明確であるかどうかの差が出たように思えました。

就業体験が始まり、順調に働くことができた生徒が多かったですが、中には体調不良等で休んでしまう生徒もいました。休んだことは残念ですが、責任の重さなど大切なことに気づくことができたと思います。

インターンシップは、職場体験だけではありません。自己紹介書を書く、事前訪問をする、礼状を送るなど、事前・事後の取組があります。自己分析をしたり、コミュニケーション力を高める良い機会になったと思います。生徒たちは、自己紹介書を書くことに、かなり苦労をしていたようです。しかし、全員がその過程をクリアしてくれました。将来の進路選択と進路実現に向けての大きな力になったと思います。

「つながる力向上プログラム」

1年担任・保健体育科 吉岡知徳

間人分校独自の取り組み「つながる力向上プログラム」はソーシャルスキルトレーニングを中心に、社会生活に欠かせないコミュニケーション能力を身につけることを目標としています。1年生を中心に実施しており、身近な友達・先生、そして地域社会との【つながる力】の育成をめざしています。具体的には、「ソーシャルスキルとは何か」から始め「基本的なあいさつ」や「生活習慣の大切さ」「ちょっと教えてピンゴゲーム」「適切な言葉つかい」「話の聞き方」などを学びます。小さな成功体験の積み重ねが、やがて社会に出るための大きな力になると感じています。

「つながる力」とは、もともと家庭・学校・地域社会全体で培ってきた力だと思います。しかし、核家族化が進み、地域の行事への参加する機会も少なくなっています。ネット社会が広がり、人と会話する方法も携帯電話によるチャットやメールが多くなりました。人と対することを避ける子どもが増え、人間関係にまずく大人も少なくありません。「つながる力」を育むことで、積極的に社会に参加し、その中で共生していける力を身につけてほしいと願っています。

「全員参加の間人分校」

副校長 木村嘉宏

誰にも得意・不得意がありますが、得意なことだけではなく不得意なことや気の進まないこともしなければならぬのが世の中です。私は二つのことが大切だと考えています。一つは自己理解、つまり自分の適性や可能性を把握することです。もう一つは必要なときに援助を求めること、言い換えれば周囲の支援を得ることです。

もちろん自立することは大切ですが、自立とは他人の力をまったく借りないで自分だけで行うということではありません。そもそも社会は、分業（助け合い）で成り立っています。周囲と関わりをもちながら、支え・支えられて生きることが当たり前の姿なのです。

見通しがもてなければ、無理をせずに助けを求めればよい。余力のある人は手伝ってあげてほしい。そうして、全員がいろいろなことに参加し、チャレンジできる。みんなが成長を遂げていく。そんな間人分校であってほしいと願っています。

「コミュニケーションについて」

生徒指導部長・保健体育科 岡下宏行

「持ち味」「情報」「挨拶・会話」「おだやかな人間関係」をキーワードとしてコミュニケーションについて考えてみましょう。

人にはそれぞれ「持ち味」があります。例えば、ノートをとるのは遅いが丁寧である。少し雑だが写すのは早い。誤解されやすいがはっきりとしている。などです。しかし、持ち味を出し過ぎると、周囲と摩擦が生じることがあります。ですから、他人にも思いが至るようになってほしいと思います。

他人を理解するためには情報が必要です。情報を得るためにはまずは挨拶をし、会話をすることです。つまり、コミュニケーションが大切です。コミュニケーションが不足すると、「何でそんなことを言うの?」「何でそんなことをするの?」と疑問がふくらみ、その気持ちが言葉や態度に表れます。そうすると、おだやかな関係は望めません。

平和な人間関係を維持するためには、コミュニケーションを大切にし、互いの持ち味を理解しつつ、おだやかな言動を心がけることが大切です。

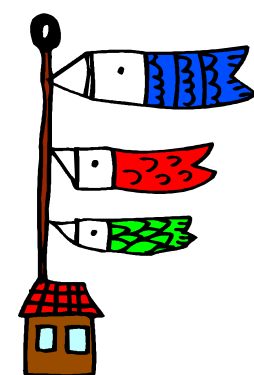
「サマンサ先生との交流会」

統括学年部長・英語科 行待 香

間人分校には月に一度外国語指導助手（ALT）の先生が来ます。1学期まではアメリカ人のサマンサ先生が来られていました。授業では、鯉のぼりのカードを作ってアメリカの幼児に送ったり、七夕の短冊に英語で願い事を書いて飾ったり、クリスマスカードやバレンタインカードを作ったりしました。また様々なゲーム等の言語活動をして楽しみました。はじめは少し恥ずかしそうにしていた生徒達も、回数を重ねる毎にサマンサ先生の授業を心待ちにするようになりました。

毎回、放課後にはサマンサ先生との交流会をもち楽しく過ごしました。普段、授業では話せないことを話したり、聞いたりする良い機会になり、また色々なゲームをして交流を深めました。普段の生活では、本物の英語に触れる機会がほとんどないので、今後もこの交流会を続けていきたいと思っています。

2学期からはニール先生（アメリカ人）が来られます。勇気を出して色々な話をして交流を深めて欲しいと思います。



「茶道体験」

4年担任・商業科 岡田英人

6月に3・4年生対象の茶道体験を実施しました。お辞儀などの基本的な作法や茶道の概要をビデオ教材等で学習し、実際にお茶を点て、亭主・客・水場の体験をしました。見たことのない道具や慣れない作法にとまどいながらも、生徒たちはそれぞれの役割を務め、お菓子やお茶を楽しみました。

亭主が客をもてなすために掛け軸や茶花であらわす心配り、あるいは客が亭主にあらわす感謝の気持ちの表現や周りの客に対する心配りなど、現代の礼儀作法につながるものが多くありました。たとえば、茶道における「真」「行」「草」と、現代の「最敬礼」「敬礼」「会釈」など、まったく同じ意味を持つ礼儀作法です。

当日の生徒たちは、決められた挨拶や所作をするのが精一杯でしたが、もてなす側、もてなされる側のそれぞれの立場になったときに、この体験で学んだ感謝の心、気配りの心を思い出してほしいと思います。

「好きなことを続けるということ」

2年担任・数学科 木南成明

突然ですが、みなさんの趣味は何ですか？スポーツ・料理・音楽・ものづくり・読書・ゲームなど、いろいろあると思いますが、この「趣味」というのは非常に強力なものです。好きなことは長時間やっても苦にならないし、長時間できるから得意になり、さらにその趣味に打ち込めるようになります。すると、同じ趣味を持った人同士で集まり交流が始まります。好きなことに関して交流するのは実に楽しいことであり、毎日がとても充実します。

また、趣味は仕事にもなり得ます。私が高校生の頃の趣味は「数学を教えること」でした。数学そのものも好きでしたが、「人に教える。」ことがその何倍も好きでした。よく手作りのプリントや試験問題を作成して友達に配ったり、黒板を使って数学を教えたりしていました。これは大学に進学した後も変わらず、さらに「数学を語ること」という趣味が加わりました。数学を教えることはもちろん今でも大好きで、それゆえに今の「教師」という職業を選びました。みなさんも趣味ととことん向き合い、それを将来に活かしてみませんか？

「食う・寝る・遊ぶ（活動する）」

保健部長・特別支援教育コーディネーター 藤原典子

人は、24時間周期の地球で生きています。この日周リズムを無視することはできません。自然の営みの中で生かされていることを、私たちは忘れてはいけないと感じています。人は、寝て食べてはじめて遊ぶ（活動）ことができるのです。食う・寝る・遊ぶ（活動）の3つは、互いに密接な関係にあり、どれか一つをおろそかにしても生きていくことはできません。遊びの中身は、社会活動、遊び、コミュニケーション、学力、体力などさまざまですが、食べない、寝ないで活動の質を高めることはできません。

朝の光は「心を目覚め」させます。おいしい朝ご飯を見ながら手を動かし、食物のにおいや味を楽しみ、よく噛むことで「頭の働きが活発」になります。食物を飲み込むことで「身体の働きが目覚め」、排便につながります。高校生活の中で、食う寝る遊ぶの力を高め、生涯にわたって健康に過ごしていく力を高めましょう。そして、自分の長所や特性をとらえ自分自身の課題解決力を向上させ、自信を持って社会生活を送るための「自立力」をぜひ身につけて欲しいと思っています。

「努力は人を裏切らない」

技術職員 中田邦雄

高校生活は、将来のためにとっても重要な期間です。一人一人が目標をもち、勉学やスポーツなどいろいろなことに挑戦し、視野を広げ、力を身につけてほしいと思います。

「無限の可能性」を信じて、勇気を持ち、積極的に自分の人生を耕しましょう。とにかく努力を惜しまないことが大切です。今、がんばっていることが、いつの日か必ず活きるのです。何事にも感謝し、素直に喜ぶということを大切にして、学校生活を送ってほしいと願っています。

今後とも御支援・御指導よろしくお願いいたします。

京都府立網野高等学校間人分校

〒627-0201 京丹後市丹後町間人 337 / TEL & FAX 0772-75-0142